

ふるさと納税通信

問 経営企画課ふるさと応援係 ☎95-9866

ふるさと納税パートナー企業として活躍する(株)斉藤鉄工所に、ふるさと納税を契機に変わったことや自社での取り組みなどを代表取締役社長斉藤英和氏にインタビューしました。

(株)斉藤鉄工所の主な返礼品は文鎮です。自動車部品製造で培った切削技術を駆使し、オリジナルデザインでものづくりをしています。



Q ふるさと納税を始める前の課題は

A 「自分で考えて作った製品が世の中に受け入れられるのか」それを確かめたい気持ちがありました。販路開拓には事務や費用負担といった大きな労力が必要でしたが、ふるさと納税は負担なく始めることができました。

Q ふるさと納税を知るきっかけは

A 妻の紹介です。市内でふるさと納税を始める企業が増えてきて、いろいろな人から紹介されることが多かったです。

Q 文鎮を作り始めたきっかけは

A 小さい頃から書道を習っており、こんな文鎮があったらいいなという思いを抱いていました。若くして亡くなった母も書道が大好きで、自身で事業を立ち上げる際の一番最初の商品は文鎮にしようと決めていました。

Q ふるさと納税をまだ始めていない企業へ一言お願いします

A 自社でECサイトを展開しようとするすると事務や費用負担がハードルでした。また展開するためには手数料がかかりますが、文鎮という商材で利益を出せるかどうか不安もありました。ふるさと納税では、サイト掲載から発注まで市の担当者も手伝ってくれるので、個人でもストレスなく始められます。

Q ふるさと納税がきっかけで変化は

A これまでは取引先の依頼に忠実に答えるものづくりでした。しかし、ふるさと納税では自身の心に忠実に作るものづくりとなり、能力を最大限に生かしながら設計、製図、加工をして製品を作ります。それ故にその過程による充実感は今までの比では無く、全国の方々から星の数ほどある商品の中から自社の商品を選んでいただけた時の感動もまたこの上ない喜びになっています。

Q 商品のこだわりは

A 紙をただ押さえるだけの文鎮では無く、それ以外の機能やスタイルでハッと驚く要素を追加させて皆様にワクワク感を感じていただきたい。そこに最大限のこだわりを持って創作しています。特に弊社の文鎮「革【KAKU】」は、名前の由来「文鎮を革命する」その思いを具現化した弊社オリジナル製品の第一弾であり、ストレス無く紙の隅々まで思い切って字を書くことのできる様、中心部分に凹みをつけた今までに無い画期的なデザインの文鎮になっています。



△革【KAKU】

Q 今後の目標は

A 会社内に日本地図を貼っていて、寄附いただいた都道府県に色を塗っています。まだまだ東北、中国、九州と寄附が少ない地域もあるので全国各地から寄附をいただけることを目指しています。さらに全国各地で実演販売し、実際に消費者と触れ合いたいです。

